

福祉サービス第三者評価結果

事業所名	情和園デイサービスセンター
------	---------------

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターおおいた

②第三者評価実施期日

令和3年11月24日

③事業者情報

名 称：社会福祉法人 愛泉会 情和園デイサービスセンター	種 別：通所介護
代表者氏名：理事長 土師壽三	定員（利用人数）50名（35名）
所在地：〒879-5406 由布市庄内町西長宝870-1	
TEL：097-582-1010	

④総評

◇評価の高い点

・【理念、基本方針が明文化され周知が図られている。】

高齢者総合福祉施設社会福祉法人愛泉会情和園は、法人、福祉施設・事業所の使命や役割を事業創設理念「肉親を思うところをそのままに永遠に捧げん情和の園に」と示し、経営理念の「情和園5か条」は実施する福祉サービスの内容や特性を踏まえている。法人は、さらに具体的に「情和園5か条」をわかりやすく職員の行動基準としてより具体的に明文化している。利用者や地域への周知については、ホームページや事業所広報誌、事業所内掲示により周知が図られている。職員への周知は、年始めの施設長による訓示にはじまり「情和園ルールブック」を用いて、採用職員や各部署研修で定期的に周知を図っている。

・【福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。】

法人理事長は、各管理者と会議等を通じ、常に福祉サービスの現状を把握している。福祉サービス向上の体制として、「QOW委員会」「在宅会議」「研修員会」等の体制、職員教育向上のための「メンター制度導入」、法人本部と各事業所が計画的に学習会や研修会開催を行うなど重層的な取組に指導力を発揮している。

・【経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。】

理事長（管理者）は、自ら実施する福祉サービスについて、分析・データ化している。法人本部総務課は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識形成するため「QOW委員会」「在宅会議」等の体制構築し、管理者自らも積極的に参画している。働きやすい環境整備等を整理した内容12項目について「情和園は生まれ変わります」のテーマで、ホームページに掲載し、具体的な取組を行っている。

・【利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。】

法人理念、倫理要綱を定期的に周知することや職員全員から公募決定した、令和3年度あい言葉「思いやるあなたの心を大切に」差しのべるその手その声その笑顔を常に確認し、利用者を尊重した福祉サービス提供に関する基本姿勢を示している。人権への配慮については計画的・継続的に研修を実施している。

・【利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている】

ミーティングにて利用者の状況把握を行い、検討会議録に記載し、通所介護計画書に沿った内容をサービス実施状況報告書にて毎月まとめている。

・【利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている】

利用者の尊厳を尊重し、例えば難聴や視力障害のある方には筆談や耳元で話しかけるなどで対応している。言葉使いや態度について、受け止め方には利用者による個人差や性差があることを絶えず認識し、職員個々の意識改善を日々のミーティングにて検証している。

・【食事をおいしく食べられるよう工夫している】

軽音楽をかけ、ゆっくり落ち着いた雰囲気ですごせるようにしている。利用者の希望を聞き取ったり、行事食や四季が感じられるメニューで、利用者も食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。

・【利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている】

利用者の尊厳を尊重し、例えば難聴や視力障害のある方には筆談や耳元で話しかけるなどで対応している。言葉使いや態度について、受け止め方には利用者による個人差や性差があることを絶えず認識し、職員個々の意識改善を日々のミーティングにて検証している。

・必要な情報提供は連絡ノートに体調面や必要事項を記載し、送迎時にも口頭にて家族に伝え、連携を図っている。また連携の際には家族の身体的・精神的な負担の軽減を図るよう支援している。

◇改善を求められる点

特記事項なし

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

サービスの提供について、ご利用者の身体状況や思いに添った利用者本位の支援が行えるよう協議を重ね、支援内容の検討を随時行っています。また、レクリエーションやクラブ活動を通じ、楽しみながらご利用者の保有する能力が活かされ、自立に向けての力が発揮されるよう工夫しています。

今後もこの姿勢を堅持して参ります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果（別紙）